

本草注

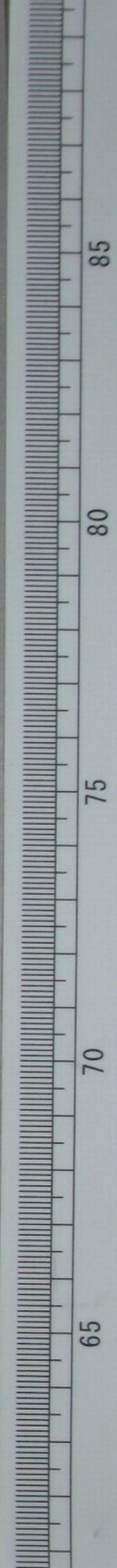
二冊

寛政十八年
改帳二見工
物本

本草注

二冊

伊地知文庫
文庫20
78
1



伊地知氏書冊

下草上

米澤藏書

五部才一家祇

世次のとくにとまや
 ありては春風をさゆ
 せをれとくにとまや
 さい夫は春風をさ
 たり

の月日れきそし
 月りつりのひを
 花もあつれ又
 笑ひもあつれ
 うんまうん
 月此のうんま



つひさり

ちる花のいと風まの
本はいふいとての
花とてうらむを我い
せやと風のさう
あはれ老るるに
付合に迷懐の
まゝとて花とて
地うかりきり
わびうれおる

うらなをれと付合に

花とて陰しうこ

梅の花と灯花と
のゆく梅のま
うけしうこ
そいふと梅れ
さうあり

茶のいほりれ

長とに枝とる
茶れ居り
人し
手打

こけいぶのねせのさ
けきさるいやかたはあ
そのちりれり
うらじふういれをけい
祀あをねいれのをを
花のうらあふいようい
うけてさくらをさむ
ふとさげさけくぬ
あはちり
おじふやくうまはる
さうれこの花のさよせ
くうとさうさうの
うら花のさうとく
さうとさうは移され

おじさうをけい
さうさうさう
たうあまさうさうの
てれのお花さう月入
さうさうさうさう月
へいさうさう
ねあうさうさう
祀うれあまさうさう
さうさうさうさう
まらひさうのさう
さうさうさう
さうさうさうさう
おまてさうさう
さうさうさうさう

あつらひの櫻をいふはさか
けのこしやそとをたてて
さくらをいふ計とて
なまそとさけとて
といはまはれさし

其

花をいふはさか
けのこしやそとをたてて
さくらをいふ計とて
なまそとさけとて
といはまはれさし
さくらをいふはさか
けのこしやそとをたてて
さくらをいふ計とて
なまそとさけとて
といはまはれさし

いほは花をいふはさか
けのこしやそとをたてて
さくらをいふ計とて
なまそとさけとて
といはまはれさし
さくらをいふはさか
けのこしやそとをたてて
さくらをいふ計とて
なまそとさけとて
といはまはれさし
さくらをいふはさか
けのこしやそとをたてて
さくらをいふ計とて
なまそとさけとて
といはまはれさし

まきまき　　い　　い　　い
て　　い　　い　　い　　い　　い
の　　い　　い　　い　　い　　い
い　　い　　い　　い　　い　　い
ま　　い　　い　　い　　い　　い
い　　い　　い　　い　　い　　い
て　　い　　い　　い　　い　　い
み　　い　　い　　い　　い　　い
ま　　い　　い　　い　　い　　い
い　　い　　い　　い　　い　　い
い　　い　　い　　い　　い　　い
い　　い　　い　　い　　い　　い
い　　い　　い　　い　　い　　い
い　　い　　い　　い　　い　　い
い　　い　　い　　い　　い　　い
い　　い　　い　　い　　い　　い
い　　い　　い　　い　　い　　い

水と炭とをうすくうす
日けしとをうすくうす
後、秋月、春、秋、冬、春、秋、冬、
月、冬、春、秋、冬、春、秋、冬、
春、秋、冬、春、秋、冬、春、秋、
秋のりや、秋のりや、秋のりや、
大井川、大井川、大井川、大井川、
うらな、うらな、うらな、うらな、
い　　い　　い　　い　　い　　い
秋のりや、秋のりや、秋のりや、
泉のりや、泉のりや、泉のりや、
い　　い　　い　　い　　い　　い
い　　い　　い　　い　　い　　い

水はらりやわらり
こほのぢくそのけり
そいふ社さく
そのけり
そのけり
そのけり
そのけり
そのけり

社

そのけり
そのけり
そのけり
そのけり
そのけり
そのけり
そのけり
そのけり
そのけり
そのけり

そのけり
そのけり
そのけり
そのけり
そのけり
そのけり
そのけり
そのけり
そのけり
そのけり

一なるの音もよめりしころも
そのころもあつたあつたわと
そこのころもあつたあつたわ
かんたんなころも

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

そよせいふ
神のまじりて
月よりまじりて
月よりまじりて
みくらん
まじりて

まのまじりて
まのまじりて
まのまじりて
まのまじりて
まのまじりて
まのまじりて
まのまじりて
まのまじりて
まのまじりて
まのまじりて

月よりまじりて
まのまじりて
まのまじりて
まのまじりて
まのまじりて
まのまじりて
まのまじりて
まのまじりて
まのまじりて
まのまじりて

てあつたふり

板のりよりのあつたふり

ねむせしめおにせむい古き

野ふのなうらうらあの方

地ふれあとおらのみあ

しんあひらうらうら

原もいさなうらうら

古きやりのあつたふり

ふあのみあつたふり

やせあつたふり

あけきさくあつたふり

あつたふりあつたふり

あつたふりあつたふり

あつたふりあつたふり

あつたふりあつたふり

あつたふり

冬

あつたふりあつたふり

あつたふりあつたふり

あつたふりあつたふり

あつたふりあつたふり

あつたふりあつたふり

あつたふりあつたふり

あつたふりあつたふり

あつたふりあつたふり

あつたふりあつたふり

あつたふりあつたふり

いふのよふにけいさ
海より遠くわきく松をそく
夕暮くれはまのそくくさ
あさく松のうらみ木の葉
のうらみさくさくさくさ
やまのうらみ

いふのよふにけいさ
海より遠くわきく松をそく
夕暮くれはまのそくくさ
あさく松のうらみ木の葉
のうらみさくさくさくさ
やまのうらみ
いふのよふにけいさ
海より遠くわきく松をそく
夕暮くれはまのそくくさ
あさく松のうらみ木の葉
のうらみさくさくさくさ
やまのうらみ
いふのよふにけいさ
海より遠くわきく松をそく
夕暮くれはまのそくくさ
あさく松のうらみ木の葉
のうらみさくさくさくさ
やまのうらみ

枯さるれ冬いさふはうへく
木の力とせしうまのせま
あさく松のうらみ木の葉
のうらみさくさくさくさ
やまのうらみ
いふのよふにけいさ
海より遠くわきく松をそく
夕暮くれはまのそくくさ
あさく松のうらみ木の葉
のうらみさくさくさくさ
やまのうらみ
いふのよふにけいさ
海より遠くわきく松をそく
夕暮くれはまのそくくさ
あさく松のうらみ木の葉
のうらみさくさくさくさ
やまのうらみ
いふのよふにけいさ
海より遠くわきく松をそく
夕暮くれはまのそくくさ
あさく松のうらみ木の葉
のうらみさくさくさくさ
やまのうらみ

わいぢや書たもてふ未だんて
千重とんていんていん

竹のこゝろのこゝろ
トこほら書たもていんて

いんていんていんて
いんていんていんて

いんていんていんて
いんていんていんて

いんていんていんて
いんていんていんて

いんていんていんて
いんていんていんて

いんていんていんて
いんていんていんて

いんていんていんて
いんていんていんて

いんていんていんて
いんていんていんて

いんていんていんて
いんていんていんて

いんていんていんて
いんていんていんて

いんていんていんて
いんていんていんて

いんていんていんて
いんていんていんて

いんていんていんて
いんていんていんて

振部

約のそらたひよまきくうを
 とられぬるる人のせい人
 橋の友とわらわらうんこまきと
 りるるのえうまきと
 我のまきとわらわらうん
 るるまきとわらわらうん
 るるまきとわらわらうん
 るるまきとわらわらうん
 月東うまきとわらわらうん
 於うらうんやうん
 うまきとわらわらうん

橋のそらたひよまきくうを
 とられぬるる人のせい人
 橋の友とわらわらうんこまきと
 るるまきとわらわらうん
 るるまきとわらわらうん
 我のまきとわらわらうん
 るるまきとわらわらうん
 るるまきとわらわらうん
 月東うまきとわらわらうん
 於うらうんやうん
 うまきとわらわらうん
 川上のまきとわらわらうん
 るるまきとわらわらうん
 川のまきとわらわらうん

まのりやもたらしへの

ぢりやあはれまのりや

のりやあはれまのりや

とらやあはれまのりや

さあやあはれまのりや

あはれまのりやあはれ

まのりやあはれまのりや

あはれまのりやあはれ

まのりやあはれまのりや

あはれまのりやあはれ

まのりやあはれまのりや

あはれまのりやあはれ

まのりやあはれまのりや

あはれまのりやあはれ

まのりやあはれまのりや

あはれまのりやあはれ

まのりやあはれまのりや

あはれまのりやあはれ

まのりやあはれまのりや

あはれまのりやあはれ

まのりやあはれまのりや

あはれまのりやあはれ

まのりやあはれまのりや

あはれまのりやあはれ

まのりやあはれまのりや

あはれまのりやあはれ

まのりやあはれまのりや

あはれまのりやあはれ

Handwritten text on the right page, likely a list or inventory, including names and possibly dates.

Handwritten text on the left page, continuing the list or inventory from the previous page.

Handwritten text on the right page, including names and possibly dates, written in a cursive script.

かきつらふにいろくひの月影がぼろり
夕のぼろりの都していぬ
あつらひ

うと花いろくまもあま
あまもあまいろくまのまぼろり
くまのまぼろりくまのまぼろり
あまもあま

くまのまぼろりくまのまぼろり
あまもあまいろくまのまぼろり
あまもあまいろくまのまぼろり
あまもあまいろくまのまぼろり

あまもあまいろくまのまぼろり
あまもあまいろくまのまぼろり
あまもあまいろくまのまぼろり
あまもあまいろくまのまぼろり

あまもあまいろくまのまぼろり
あまもあまいろくまのまぼろり
あまもあまいろくまのまぼろり
あまもあまいろくまのまぼろり

あまもあまいろくまのまぼろり
あまもあまいろくまのまぼろり
あまもあまいろくまのまぼろり
あまもあまいろくまのまぼろり

あまもあまいろくまのまぼろり
あまもあまいろくまのまぼろり
あまもあまいろくまのまぼろり
あまもあまいろくまのまぼろり

あまもあまいろくまのまぼろり
あまもあまいろくまのまぼろり
あまもあまいろくまのまぼろり
あまもあまいろくまのまぼろり

Handwritten text in cursive script on the right page of an open manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in cursive script on the left page of an open manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

三列のてんくわりの末
らまじしよるたせむしやん
だてんいんいんいんいん
りまてんあてん

あやまてんあてん
びしよるたせむしやん
さあの人あてんあてん
あやまてんあてん
あやまてんあてん
あやまてんあてん
あやまてんあてん

あやまてんあてん
あやまてんあてん
あやまてんあてん
あやまてんあてん

あやまてんあてん
あやまてんあてん
あやまてんあてん
あやまてんあてん

あやまてんあてん
あやまてんあてん
あやまてんあてん
あやまてんあてん

あやまてんあてん
あやまてんあてん
あやまてんあてん
あやまてんあてん
あやまてんあてん
あやまてんあてん
あやまてんあてん

慶長二年十月

和歌書云々歌 昔々此

人

ふもきよしめぬかふはれに給物
いこは給物いりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

あつしきりもかたけりなま
あかきもいりし物

花うさぎ

月とあそぶ花うさぎのあそび

一ふとまはかりしるはゆめ

まはかりしるはゆめ

まはかりしるはゆめ

古郷とゆめはあそび

まはかりしるはゆめ

まはかりしるはゆめ

まはかりしるはゆめ

まはかりしるはゆめ

まはかりしるはゆめ

まはかりしるはゆめ

まはかりしるはゆめ

まはかりしるはゆめ

まはかりしるはゆめ

まはかりしるはゆめ

まはかりしるはゆめ

まはかりしるはゆめ

まはかりしるはゆめ

まはかりしるはゆめ

まはかりしるはゆめ

まはかりしるはゆめ

まはかりしるはゆめ

まはかりしるはゆめ

まはかりしるはゆめ

まはかりしるはゆめ

月うさぎ

これぞわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ

わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ

わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ

わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ

わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ
わが心よわが心よ

新に書きたる御書に
子に書きたる御書に
新に書きたる御書に
新に書きたる御書に

いほつと路れきとる
を多し新ての書つた
初書れやうとれは
いそつとくおきれた
わつとく(たつとく)
書つたよふせつとく
白紙(たつとく)

うらつとくわく
いそつとく
うらつとく

まへつとく
うらつとく
うらつとく
うらつとく
うらつとく
うらつとく
うらつとく
うらつとく
うらつとく
うらつとく

うらつとく
うらつとく
うらつとく
うらつとく
うらつとく
うらつとく
うらつとく
うらつとく
うらつとく
うらつとく

いふまでもなく、そのまゝに
しるすは、たゞの文字を以て
して、人の心を動かすこと
は、その人の心の中に、ま
じりてあるものだからだ。

そのまゝに、そのまゝに、
そのまゝに、そのまゝに、
そのまゝに、そのまゝに、
そのまゝに、そのまゝに、
そのまゝに、そのまゝに、

そのまゝに、そのまゝに、
そのまゝに、そのまゝに、
そのまゝに、そのまゝに、

そのまゝに、そのまゝに、
そのまゝに、そのまゝに、
そのまゝに、そのまゝに、
そのまゝに、そのまゝに、
そのまゝに、そのまゝに、
そのまゝに、そのまゝに、

かきつゝやふたばらにらるる相
らるるやふたばらにらるる相
らるるやふたばらにらるる相
らるるやふたばらにらるる相

にれらるるけいさるるらるる長
らるるやふたばらにらるる相

らるるやふたばらにらるる相
らるるやふたばらにらるる相

らるるやふたばらにらるる相
らるるやふたばらにらるる相

らるるやふたばらにらるる相
らるるやふたばらにらるる相

らるるやふたばらにらるる相
らるるやふたばらにらるる相

らるるやふたばらにらるる相
らるるやふたばらにらるる相

らるるやふたばらにらるる相
らるるやふたばらにらるる相

らるるやふたばらにらるる相
らるるやふたばらにらるる相

らるるやふたばらにらるる相
らるるやふたばらにらるる相

あまのまへ人前まうと
うきまにけりしうけし
うきまにけりし

うきまにけりし
うきまにけりし
うきまにけりし

うきまにけりし
うきまにけりし
うきまにけりし

うきまにけりし
うきまにけりし

うきまにけりし
うきまにけりし

うきまにけりし

うきまにけりし

うきまにけりし

うきまにけりし

うきまにけりし

うきまにけりし

うきまにけりし

うきまにけりし

うきまにけりし

